

良いとこ自慢・・・自分の園所が自信をもって誇りに思えるような取組
ここを改善・・・主にこれまでの特定教育・保育施設評価の中で課題・改善点として挙げた内容の取組

教育・保育目標
明るくのびのびとあそぶ子ども・丈夫なからだで強い精神力をもつ子ども・何事にも一生懸命取り組む子ども
・創造力たくましい子ども・やさしさと思いやりの心をもつ子ども・友だちと一緒に遊べる子ども

【目標達成計画】

項目	園の現状や取組、課題	目標	目標達成に向けた具体的な取組内容	成果	評価
共通課題	【新型コロナウイルス感染症予防対策について】 (現状)こども…6月の保育再開後、長引く自粛に不安が見られた。マスク着用も難しい。 (課題) 子どもの不安を緩和すること。→清潔衛生習慣を身につける=感染予防 (マスク着用・手洗い・消毒・フェイスシールド・ソーシャルディスタンスの確保など) 働き方にかかわらず、全ての職員が同じ感染予防意識を持つ。	① 予防対策について全職員が共通認識を持つ ② 清潔衛生習慣を身につけ、「かからない・広げない・自分を守る」意識を持つ。(R2年度 実践報告) ③ 感染症マニュアルに基づく清掃を身につける。	① 自粛期間中・保育再開に向けて・感染者が出た場合などその都度会議を行う。 ② 年齢に応じた清潔衛生習慣に取り組む。 ③ 全職員で会議を行い、衛生面に配慮した清掃を行う。	① 3段階に分けて会議を行ったことで、その都度新しい情報を職員で共有できた。状況を踏まえて、今後も会議を予定している。 ② 実践報告に沿って取組み、登園時の手洗いなど自然と身につけてきた。 ③ 個人差のあった清掃の取り組みを、統一・確認することができた。	① 3月31日に「感染症対応マニュアル(一般内容)」を職員に周知した。コロナウイルス感染症予防対策について職員の疑問や不安を集約し、6月に「感染症予防対策」、8月に「園独自の感染症対応マニュアル」を作成した。「こども園内の衛生管理マニュアル」「自園で発生しクラスターとなる場合のフローチャート」を全職員に配布し、研修でも周知した。出勤してからのルーティーンや清掃手順・現状に合った対応・配慮事項を具体的に文書化して共有することで、効率的に統一した対応ができると共に、職員の不安の軽減も図られている。 ② 「小さな命を守るために今できること」を三木市の人権同和教育の研究テーマとして、年齢に応じた清潔衛生習慣を発表し、発表内容を職員間で共有し実践につなげている。コロナ予防対策について年齢に応じた意識づけに取り組み、3・4歳児は手洗いと適宜のマスク着用、5歳児は手洗い励行と常時のマスク着用が自然と習慣づいてきている。 ③ 園内の消毒作業を会議で話し合い、一連の清掃手順をマニュアルで統一化することで、全職員が共有し実施できている。
良いとこ 自慢！	(保育内容面) ① 広い園庭で、四季折々の自然に触れた遊びが楽しめる。 ② 全クラスが園庭で遊ぶことも多く、異年齢のふれあいや担任以外の保育者とも交流ができている。	① 身体づくり・体づくり ② こども：たくさん保育者に見守られながら、探求心や達成感を持つ。 保育者：園全体の子どもの育ちを、たくさん見つける。	① 給食をよく食べ、1日1～2回の戸外遊びで伸びのびと身体を動かす。 ② 「一緒に遊ぼう」「いいよ」と園庭で遊ぶ時にクラス全体で声掛けを行い、子どもも保育者もふれあいが始まる意識を持つ。支援会議を月1回行い、子どもの育ちを共有する。	① 各年齢に応じた体力が付き、運動機能が育っている。 ② 他クラスの保育者、友だちとの交流が深まり、クラス以外の子どもの育ちを把握する事ができる。	・ 全員での朝のランニングタイムは、朝日を浴びながら5分以上の一定の負荷のかかる運動によって、脳からはセロトニンが分泌されるので、子どもたちの安定に寄与している。また、全クラスの園庭での遊びによって、自ずと交流が図られているなど、園庭の広さを上手く生かした伸び伸びとした活動がなされている。
	(管理運営面) ① 提出書類内容が整理され、保育者の事務負担が減る工夫を行っている。 ② 前回の評価でヒヤリハットの工夫を提案いただき、実践できている。	① クラス職員に事前に保育を伝え、一日の見通しを持って保育を行う。 ② 園内の危険な場所・よくケガが起きる場所を把握する。	① 日誌を日案として前日に作成し、クラス職員に、一日の保育を伝える。 ② ケガをした時に、状況を記入して貼っていく。翌月の安全教室で、子どもたちに伝えていく。 ノートにまとめて貼り、事例件数など分かりやすく記入する。	① 日案・日誌を1枚にすることで、その日の活動・ねらいが伝わりやすく、事務負担も軽減されている。 ② 場所別・件数をまとめると視覚的にも分かりやすく、保管もコンパクトになった。	① 「教育・保育日誌」の書式を工夫し、前日に9:00～11:00の主な保育内容を記入しておくことで、早出の職員も1日の見通しを立てて保育に取り組むことできるようになった。訂正・変更があれば赤字で修正し、効率化が図れている。 ② 休憩室に「園内見取り図」を用意し、ヒヤリハット事例を付箋に書いて貼り、発生場所を把握し事故の未然防止につなげている。1カ月の事例をもとに、翌月の安全教室で、危険な場所を子どもに伝えている。その後、付箋を「ヒヤリハット安全教室ノート」に月別・場所別に貼付して、発生状況を把握し、事故防止につなげる取り組みを開始している。
ここを	(保育内容面) ① 園庭で子どもたちが思い思いの遊びを工夫しているが、遊具・道具の場所が分かりづらく、出しやすいもので遊んでいる。 ② 室内遊びで使いたいものを子どもたちが準備しているが、高さなど取り出しにくさがある。	① 園庭遊具・道具の管理とこどもが使いやすい環境構成 ② 室内玩具の整理と工夫	① 子どもたちが準備片付けしやすいよう環境を整える。濡れる・汚れることもあることを保護者に伝え、理解していただき、子どもが夢中になれる遊びを見守る。 ② 室内の保育環境を見直し、高さや配置など子どもの遊び場として年齢ごとに工夫する。自作の箱を作り、イスやパーテーション・積み木にして利用している。	① 自主的に好きな遊びを選び、展開できるようになった。また、おもちゃの片付け場所が分かりやすくなり、自ら出し入れができるようになった。 コーナーを作る事で、1つの遊びに集中して取り組む事ができる。	・ 新型コロナウイルス感染症対策として、きめ細かく情報共有を図りながら、全教職員の共通理解の元、年齢差に応じたマスクの着用、手洗いなどの予防対策がなされていた。まだ新しい園であるので、今後は地域の人財を生かし、子どもたちに多様な人・モノ・コトとの出会いを提供していくことで、生きる力の基礎の一層の育成を目指していただきたい。 ・ 0歳児の音への注目を意図した自作遊具や、1～2歳児の動物になり切る両側性の動き、3歳児の友だちと一緒に合わせて歌ったり踊ったりする劇遊び、4歳児の先生の動きを真似る劇遊びなど、子どもたちの年齢や一人ひとりの発達に応じた活動が工夫されている。
改善！	(管理運営面) ① 職員の働き方や、勤務体制が異なるため、伝達事項が伝わりにくい。 ② 前回の評価で、自己評価の行い方を教えていただいた。	① 全職員に会議内容を伝達をする ② 自己評価の定着	① 会議翌日に、職員休憩室のボードに会議があったことを知らせ、必要事項が伝わるようにする。プリントの配布は、個人別ファイルを利用する。 ② 働き方にかかわらず、全員が意欲や反省を書き記している。園長や主幹との交流にもなっている。	① 毎週の会議録など、伝達や配布などの渡し忘れがなくなり、職員への伝達がスムーズになった。 ② 書くことで、各クラスの取組や協力の必要などがわかった。今後、1つの付箋に、上段：課題・下段：評価を書き、情報交換を行い、ノートに保管していきたい。	① 職員会議を概ね週に1回開催し、出席できなかった職員には議事録の回覧で周知を図っている。会議の翌日に、職員休憩室のボードに会議の開催を伝達し、全職員が会議録の内容を確認し伝達事項を把握できるよう取組んでいる。また、配布する書類については、「個人ファイル」を利用して確実に配布できるように工夫した。「連絡・引継ぎノート」を活用し、情報共有に役立てている。 ② 「1週間の個人目標」を記入した付箋を、職員休憩室のボードにクラス別に掲示している。週末に振り返り、自己評価を付箋に追記している。職員が自分のスモールステップを確認することで意欲の向上につなげ、また、掲示しているので職員間の情報交換にもなっている。園長や主幹が職員目標や意識を知ることにもなり、時にはコメントを記入し職員との交流にもなっている。